

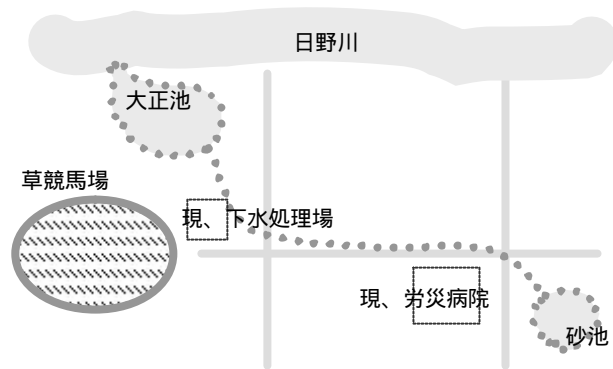
4. 輝きを放っていた戦前の皆生温泉

< 皆生にあった二つの競馬場 >

- ・ 昭和の初期から戦後にかけて皆生温泉に競馬場があったことはよく知られているが、大正末期に皆生海岸で草競馬が行われていたことはあまり知られていない。皆生温泉で和菓子の製造販売店を営んでいた内田政雄氏（大正9年生まれ）によると。

☑ 伝承者 内田政雄氏：

- ✓ 子どもの頃は、砂浜が200～300mあった。
- ✓ 海水浴をしていると海の中に温かいところがあった。砂を掘れば温泉がわいてきた。
- ✓ たぶん昭和初期だったと思うが、現在の下水処理場沖の砂浜で、草競馬をやっていたのを覚えている。



- ・ 現在、下水処理場の海側は、すぐ海岸線が来ている。ここに競馬ができるほどの海岸があったとは想像も付かない。

- ・ 当時の皆生温泉東部は、うっそうとした松林であり、河口付近には砂がたまり小高い丘になっていたという。
- ・ 現在、ホックのあるところに直径20m位の池があり、砂池と呼んでいた。砂池には湧き水があり（大山の伏流水であろう）とても冷たい水が出ていたことを覚えている。
- ・ この池から小さな小川が出ており、現在の労災病院の前、温泉公園の辺りを通り、日野川の河口付近にあった大正池にそそぎ込んでいた。その小川には小さなエビがいて、釣りの餌にしていた。大正池はかなり大きい池で、ボートなどが浮かんでいた。この大正池が日野川の河口へとつながっていたという。
- ・ 昭和に入り現在の皆生海浜公園の辺りに競馬場が作られた。昭和4年5月第一回目の皆生競馬が開催された。

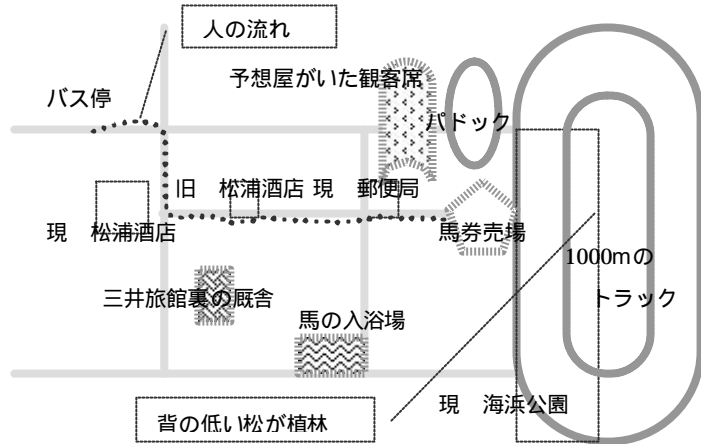
☑ 伝承者 松浦茂氏：

- ✓ 昭和12年頃皆生競馬は年に5～6回あったと思う。競馬の期間中は、大変にぎやかで露天商なども出ていて朝日町のような状況であった。
- ✓ 当時の古い店舗は競馬場へ続くメインストリート沿いにあった。バス停留所にバスが来ると、店の前を通って正面の馬券売場へと人が流れた。競馬のお客様を目当てに出来た旅館もあった。競馬で温泉街がにぎわったことは確かであった。
- ✓ 勝てば飲む、負ければ飲む、そして酒屋も潤った時代。
- ✓ 検番なども隆盛になり、皆生温泉が繁栄する基礎を作ったのではないだろうか。

☑ 伝承者 内田政雄氏：

- ✓ 現在の郵便局の辺が小高い丘ようになっており観客席があった。
- ✓ 郵便局の西側の辺に馬券売場がありその先に競馬場が広がっていた。馬券売場は 7 つぐらいの窓口があった。競馬場と観客席の間にはパドックもあったと思う。
- ✓ 競馬場は板囲いをして入れないようにしてあった。

- ✓ どこから来たのであろう予想屋がいたことを覚えている。当時、益田競馬と交互にやっていた。益田競馬がこの前まで続いていたことが驚きである。
- ✓ 戦後も 2~3 回やったと思うが、戦前の方が華やかであったという。



- ・ 現在の三井旅館の裏手には厩舎があった。
- ・ 菊萬の前の辺りには現在の綾ビルのところ馬の入浴場があった。コンクリートの浴槽があり、スロープで馬が入浴できるようになっていた。戦前に内田氏も、その入浴場で馬の背中を流す光景を見たことがあるという。

☑ 伝承者 皆生温泉観光株式会社：「50年のあゆみ」

- ✓ ここで特筆すべきは馬浴場の出現である。競馬場の東端あたりに作られ、会社は古鉄管で温泉を送った。
- ・ この皆生競馬は、春夏二回各三日ずつ開催された。昭和 12 年まで開催された後、戦争で一時中断し、戦後昭和 22 年と 23 年に二回開催されたがその後廃止となったという。
- ・ 昭和の初期、本格的な競馬場がこの皆生温泉にあり、チンチン電車に乗って多くの人が詰めかけていたとはなんだか不思議な感じである。今は多くの人を癒している皆生温泉であるが、その昔は馬も癒す場所だったとは驚きである。

< 皆生温泉大正ロマン >

☑ 伝承者 皆生温泉観光株式会社：「50年のあゆみ」

- ✓ 明治も末年近くになって、米子町西倉吉町の雑賀源太郎氏が温泉経営にのりだした。海岸の松林の手前あたりに、こわ葺の長屋を建てて民宿まがいの湯治場とし長生館と号した。
- ・ 皆生温泉が産声を上げたころの旅館の姿が描かれている。大正 11 年 6 月有本氏が温泉開発を始めてから最初に建った旅館が大山館と静養館であった。そして同年 7 月に開業したのが日の出館であった。
- ・ 昭和の初期までこの三つの旅館が皆生温泉で最も繁盛していたようだ。

☑ 伝承者 松浦茂氏：

- ✓ 昭和 10 年頃、大山館、静養館、日の出館が大きな取引先であった。とにかく大口の注文であったため納品は馬車で行っていた。
 - ✓ 馬車は、今で言う運送屋さんが持っていた。皆生にはそのような商売をされている方が 1~2 名いたと思う。お願いすると大八車や馬車で荷物を運んでくれた。米子からお酒を仕入れるときもお願いしていた。
- ・ 当時、米子から皆生まで荷物が届くのに 1 週間ぐらいかかったという。当時はのんびりとしたもので、旅館からの注文があつてから 3 日ぐらいで納品すれば上できであった。もちろん催促などもなかったという。
 - ・ 先日まで当時(昭和 4 年頃)の毛筆の売掛帳が残っており酒一升瓶一本 95 銭であった。残念ながらその売掛帳は捨ててしまったという。
 - ・ 大正 14 年に開業したのが今では伝説的な存在となっている「山陰パラダイス」である
 - ・ 四条通りの突き当たりでできたパラダイスは、温泉浴場“滝の湯”をはじめプール、子ども遊技場、休憩広間、貸室、食堂、売店などそなえた高級娯楽センターであった。
- ☑ 伝承者 皆生温泉開発 60 周年誌：「皆生今昔」
- ✓ パラダイス - 旧約聖書でアダムとイブの住んでいたというエデンの園にあやかっただけのものだ。キャッチフレーズは「山陰唯一楽園地」

- ・ 温泉公園が庶民の憩いの場であるとするならば、パラダイスは少しハイカラなテーマパークといったところだったのかもしれない。昭和 4 年の火災により廃業したというが、すでに当時のことを覚えている人は少なくなっている。

昭和初期 パラダイス
写真提供 藤田収康氏



- ・ 昭和 2 年 10 月皆生温泉東部の松林の中に有本松太郎氏により造営されたのが皆生温泉神社である。祭られているのは、貴布禰神(きふねしん)と大国主命(おおくにぬしのみこと)であり、米子市車尾の貴布禰神社の分祀である。
- ・ 大正 9 年に描かれた「皆生温泉都市計画設計図」にもほぼ同じ場所に神社が描かれており、有本氏には皆生温泉開発当初からこの地に神社を建立する思いがあった。
- ・ 皆生温泉神社の御利益は、病氣平癒・健康長寿・安産子宝であるという。
- ・ 苦しいときの神頼みではないが、皆生温泉の生みの親である有本松太郎氏の功績を振り返るとともに、有本氏の思いが残されているこの神社をもう一度見直してみることも必要であるように感じる。
- ・ 大山の大神山神社も、皆生温泉神社も同じ大国主命が祀られている。伯耆のものがたりとして何かのきっかけにならないだろうか。

< 皆生温泉と戦争 >

- ・ 昭和 12 年 7 月、日華事変が勃発し戦時色が強まっていった。昭和 12 年 11 月皆生温泉に陸軍の転地療養所が開設され、その本部が静養館に置かれた。戦地で傷ついた傷病兵たちが帰還して、傷の手当をする施設であった。
- ・ 皆生温泉の各旅館に分泊し、傷病兵たちは傷を癒した。戦時下であり一般のお客様はほとんどいない状況の中であったが、皆生温泉は活気づいていた。地元の婦人会なども挙って手伝いに借り出されていた。

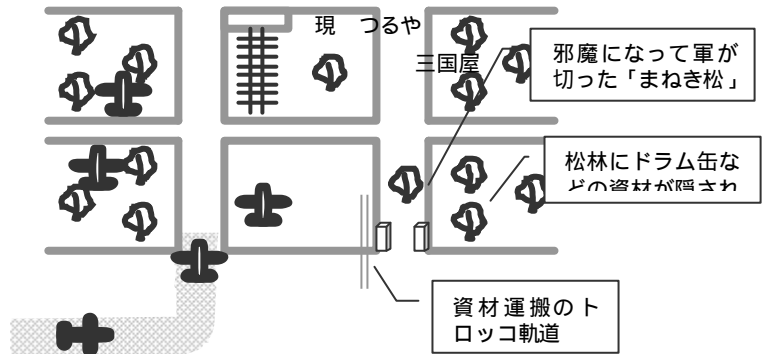
☑ 伝承者 藤田収康氏：

- ✓ 母親も静養館にいた傷病兵の世話にでていた。静養館の 100 畳の間が兵隊さんでいっぱいになっていた。人手が足りず近くの人たちが手伝っていた。傷病兵を慰問するため婦人会を中心にお茶会や運動会なども行っていた。
- ・ 当時は、戦時中とはいえまだ少し余裕のある時代であったと語る。その後、戦局が進み厳しい時代となっていった。
- ・ 昭和 13 年 3 月に姫路陸軍病院皆生臨時分院が皆生温泉の東部に完成した。
- ・ 陸軍病院は、戦後昭和 21 年 4 月に国立米子病院となり、昭和 46 年 7 月車尾に新築移転するまで皆生にあった。当時、多くの旅館が軍の関係する施設へと変わっていった

- ・ 昭和 12 年 7 月米子市両三柳に米子国際飛行場が開かれた。この飛行場と皆生温泉は大きな関わりを持つこととなる。

☑ 伝承者 藤田収康氏：

- ✓ 昭和 19 ~ 20 年頃、伝承者は小学校の 5 ~ 6 年生であった。男手が戦争にいてるために小学校高学年は勉強せずに手伝っていた。
- ✓ 三柳の飛行場から両三柳道路、皆生通りを通して皆生まで飛行機を押して運んできた。信用金庫さんや皆生つるやさんの辺りに飛行機がたくさん止まっていた。
- ✓ 見通しの良い両三柳の空港で修理すると攻撃されてしまう。そこで皆生の松林に隠して飛行機を修理したという。



- ・ 当時は戦局がかなり悪化しており、傷ついた兵隊を本国に帰す余裕はなかったようだ。大山荘が衣替えした荘丁健民鍛錬所などで兵士を鍛えて戦地に送り込んでいた。馬を癒し、傷病兵を癒した皆生温泉は、飛行機の傷ついた翼をも癒す場所となった。
- ・ 三柳の飛行場ができた翌年に軍の命により、皆生電車が撤収されている。このようなことを想定して撤収命令がでたのかもしれない。これも皆生温泉の運命だったのだろうか。